

SDGsラジオを讀んでみよう！

お弁当を買ったり、日用品を買ったり、時にはコンサートのチケットを注文したり、毎日のように利用しているコンビニやスーパー。セブン&アイグループのセブン-イレブンやイトーヨーカドーでは、「てまえどり」を推進しています。「てまえどり」とは、購入しすぐに食べる場合に、商品棚の手前にある商品等、販売期限の迫った商品を積極的に選ぶ購買行動で、食品ロスの減少につながります。

また、それでも売れ残った商品については、家畜の飼料や農産物の肥料などへリサイクルする取り組みにもチャレンジしています。食品ロスを減らす、食品をリサイクルすると聞くと、ちょっとハードルが高いように感じますが、「てまえからとる」、それだけのことが環境を守るアクションになるんだと思うと、決して難しい話ではない気がしてきましたね。

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！



セブン&アイグループが行う「てまえどり」の取り組みは、2020年の3月からはじまり、さらに2021年の6月からは「消費者庁・農林水産省・環境省」との連携がスタート。セブン-イレブンやイトーヨーカドーをはじめとした各種店舗では、おにぎりやパンの棚に「すぐに食べるなら、手前をえらぶ。『てまえどり』にご協力ください」と書かれたPOPが付けられ、取り組みを強く推進しています。また他にも、全国の都道府県・市町村と「てまえどり」をPRするキャンペーンも行ったり、大学や専門学校で「食品ロスへの削減」をテーマにした講演会を開催したりなど、さまざまな活動を展開しています。



農林水産省によると、年間に出る食品廃棄物の量は全世界で約13億トン。日本を例にすると2017年の調査では約2550万トン、そしてそのうちの約612万トンが「食品ロス」に該当します。さらにこれを国民1人あたり1日分に換算すると、毎日約132グラム(茶碗1杯分)の食べ物が捨てられていることとなります。このような数字からもわかるように、大量の食品ロスは全世界にとっても、日本にとっても大きな課題です。少しでも減少できるように、社会全体で丸となって取り組まなければなりません。

画像参照：日本と世界で食品ロスがどれだけあるの？ | 農林水産省

キーワード

消費者庁、農林水産省、環境省の3省庁

消費者庁は私たちが物を買ったり売ったりする「消費生活」を担う機関で、農林水産省は、「食」の安全確保と安定供給を担います。環境省はその名前の通り、地球の環境保全に関わるさまざまな政策に取り組む機関です。

食品廃棄物

食品を加工したり、販売したりする際に生まれる売れ残りや食べ残しなど、「食べ物」として提供できなくなった「廃棄物」のことを「食品廃棄物」と呼びます。野菜の芯や魚の骨などの、食べられない部分も含まれます。

食品ロス

「食品廃棄物」の中でも、「まだ食べられるはずの食品」が捨てられてしまうことを「食品ロス」と言います。例えば、料理の際に野菜の皮を厚く切り過ぎて、食べられる部分まで捨ててしまうことも食品ロスのひとつです。

対象ゴール



みなさんにできること！

「てまえどり」の取り組みをきちんと理解して、商品を手前から取りましょう！

おさらい

- 「てまえどり」とは、すぐに食べる場合は、期限の近い商品から積極的に選んでもらうこと。
- 日本では1人あたり、茶碗1杯分の「食べられるもの」が毎日捨てられている。
- 手前から商品を取るだけで、「食品ロス」の減少につながる。

メモ

